

令和3年9月7日

生産流通課 中村  
(直通) 225-1620  
(内線) 4660

いなめさいけんこくでんおんぬきほしき  
令和3年度新嘗祭献穀田御拔穂式の開催について

令和3年度新嘗祭献穀田御拔穂式が下記により開催される。

記

	加 賀 地 区	能 登 地 区
拔穂式 日時 会場	令和3年9月12日(日) 10時00分～11時20分 津幡町字仮生 ほ場	令和3年9月19日(日) 11時00分～12時20分 珠洲市宝立町春日野 ほ場
献穀者 氏名	いのうえ しんいち 井上 信一	みやざき のぶお 宮崎 宣夫
献穀田概要 ほ場面積 品 種	3,385 m <sup>2</sup> コシヒカリ	3,000 m <sup>2</sup> コシヒカリ
出席者 (予定)	谷本 知事 矢田 津幡町長 焼田 県議 角井 津幡町議会議長 西川 JA石川かほく組合長 他	谷本 知事 泉谷 珠洲市長 平蔵 県議 寺井 珠洲市議会議長 表野 JAすずし組合長 他
コロナ対策	参加人数の制限(例年約60名→約30名程度) 参加者の距離の確保(前後左右1～2m間隔をあける) マスク着用、消毒液設置、検温 <small>なおらい</small> 直会(祭事後の会食)の中止	
参考 御田植式	令和3年5月15日(土)	令和3年5月21日(金)

## にい なめ さい 新 嘗 祭 に つ い て

### 1. 新嘗祭とは

新嘗祭とは、11月23日（もと陰暦11月の中の卯の日）に行う宮中行事で、天皇が新米を天地の神に供え、親しくこれを食する祭事

### 2. 新嘗祭はいつ頃から行われているか

- (1) 毎年実施されるようになったのは、第22代清寧天皇（西暦480年頃）とされている（今上天皇126代）。
- (2) 明治以前は、山城の国宇治の御領地で生産された米で実施されていた。
- (3) 明治初期から明治24年までは、全国の御領地で生産された米で実施されていた。
- (4) 全国の知事からの請願により、明治25年から各県で生産された米で実施されている。
- (5) 昭和21年に農林省監督が廃止され、現在の宮内庁での対応となった。

### 3. 献穀米の献納について

- (1) 皇居において、献穀献納式が10月下旬に執り行われる。
- (2) 皇居賢所で行われる献穀献納式に出席できるのは献穀者夫妻と各市町代表者及び作柄奏上者とその随行者
- (3) 全国各都道府県よりの献穀内容は、

精米のみ2ヶ所の県・・・石川県、北海道、福島県（3道県）

精米のみ1ヶ所の県・・・富山県、愛知県、大阪府、沖縄県等（19府県）

精米と精粟各1ヶ所の県・・・新潟県、福井県、東京都、京都府等（25都府県）

※ 都道府県数は、令和2年度

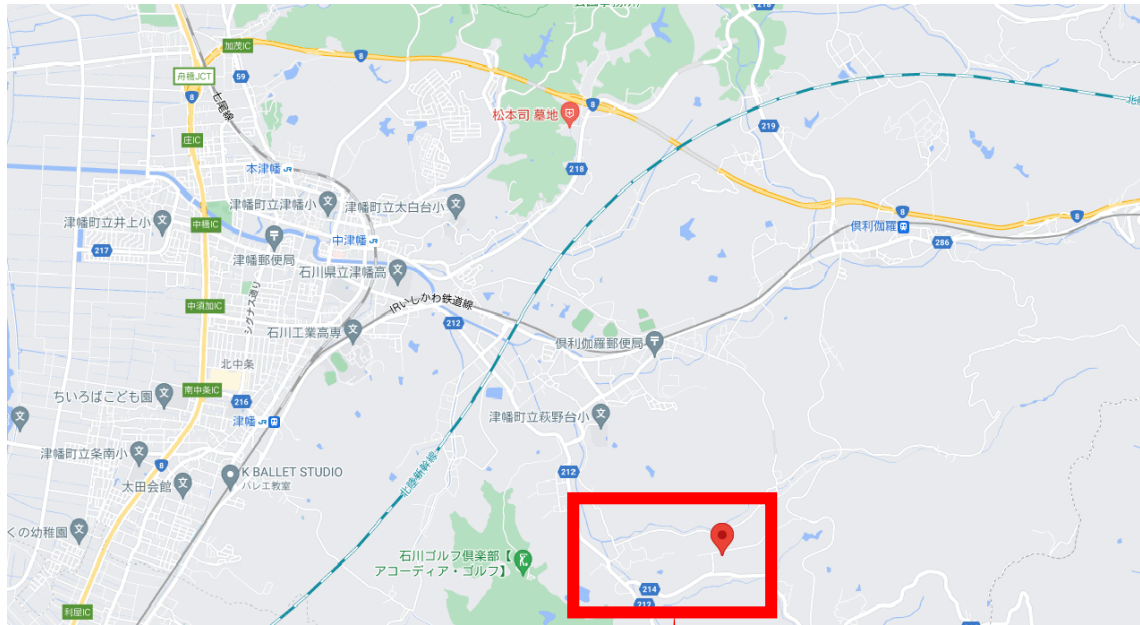
→< 献穀内容のちがい（宮内庁より） >

全国の知事からの請願により、当初は精米と精粟まいぞくによる献穀とされてきたが、時代の変化とともに粟の生産が減少する中、精粟の献穀を辞退する県が増加。なお、石川県は米産地として、精米2ヶ所での献穀を宮内庁に申し入れ、昭和32年度から特例として認められたものと考えられる。

- (4) 献納する量は、精米は1升、精粟は5合が原則であるが、石川県は精米を2カ所なので献穀者一人5合ずつ（合計1升）である。

# 加賀地区 献穀田御抜穂式会場（津幡町仮生）

津幡町仮生エ 4 3 番地（3, 385 m<sup>2</sup>）



拡大



# 能登地区 献穀田御抜穂式会場（珠州市宝立町）

珠州市宝立町春日野ち部17番地（3,000㎡）



拡大図

